

経営比較分析表（平成29年度決算）

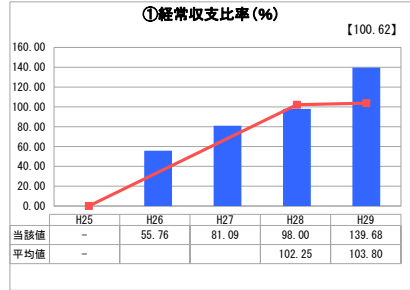
岡山県 備前市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	漁業集落排水	H1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	98.10	1.39	39.74	3,802

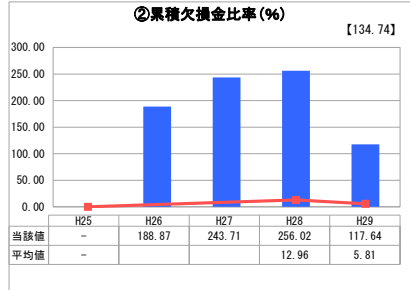
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
35,293	258.14	136.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
488	0.88	554.55

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

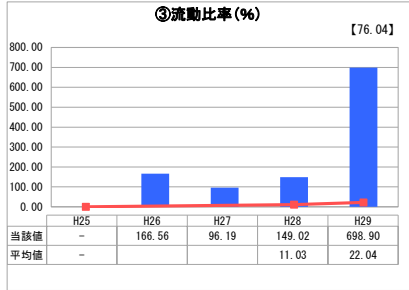
1. 経営の健全性・効率性



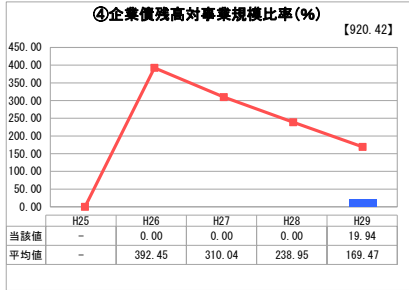
「経常損益」



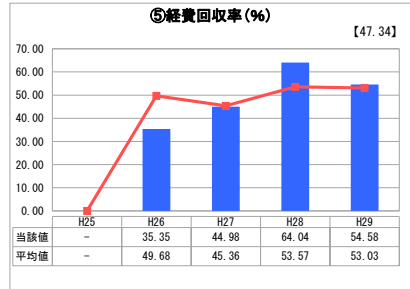
「累積欠損」



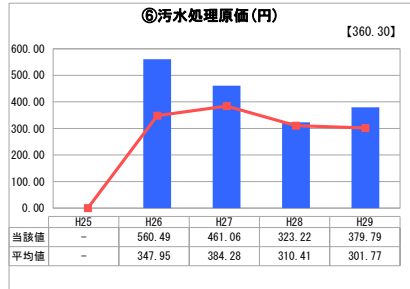
「支払能力」



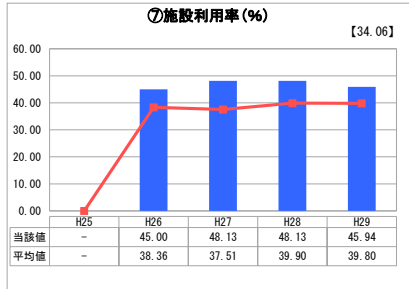
「債務残高」



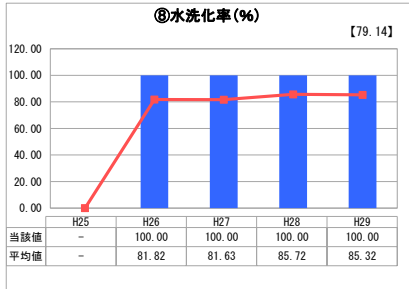
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

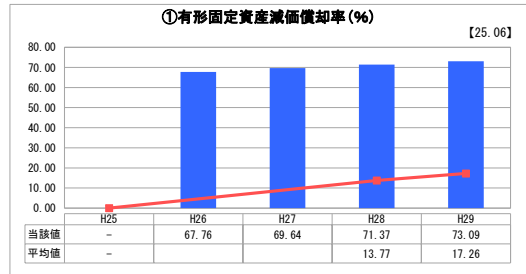


「施設の効率性」

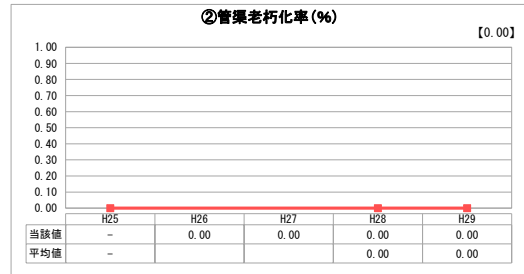


「使用料対象の捕捉」

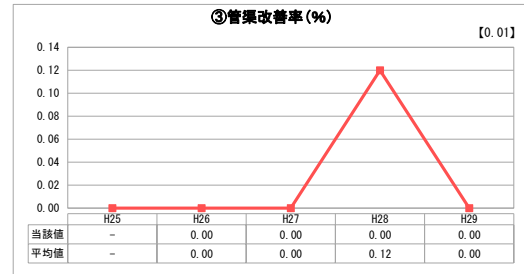
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率、②累積欠損金比率ともに、前年度と比べて大幅に改善しているが、これはセグメント間での一般会計繰入金の組替えによる収入の増加によるところが大きく、経営形態に変更はない。
- ③流動比率は、現金預金不足を解消するため、セグメント間での一般会計繰入金の組替えを実施したことにより、改善したものである。
- ④企業債残高対事業規模比率は、前年度までは企業債の元金償還金に充当していた一般会計繰入金を本年度は資本費に充当したことにより、高い比率となったが、経営形態に変更はない。
- ⑤経費回収率は、汚水処理費が増加したため、前年度と比べて回収率は低下した。
- ⑥汚水処理原価は、類似団体平均値と比べて若干高い。ただ、事業規模が小さいため、今後も有収水量の増加なども見込めない状況である。
- ⑦施設使用率は、人口減少に伴い、減少傾向にある。
- ⑧水洗化率は、100%を達成しており良好である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値と比べて高いが、顕著な問題はない。ただし、老朽化に伴う修繕の増加とともに、機能保全計画における機械施設の更新も予定していることから、財源確保に努める必要がある。

全体総括

安定的な運営を図るため、H28年度に策定した経営戦略により経営改善に努める。
具体的には、施設等の長寿命化や計画的な更新、修繕計画を策定し、効率的な経営に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。